

4 ロボット支援腹腔鏡下前立腺 全摘除術後における腹部症状に対する 大建中湯の効果についての検討

諏訪赤十字病院 泌尿器科

栗崎 功己、清河 英雄、後藤 正博

大建中湯は、「人參」、「山椒」、「乾姜」の三種類の生薬と「膠飴」からなる漢方製剤で、腸管の血流を増加することによって消化管の運動を促進するとされている。また術者が直接腸管に触れることが多い腹部手術の術後にみられる腸閉塞を予防する効果があるとされていることから、消化器外科領域では術後に用いられることが多い漢方製剤である。当院では2016年6月30日にダヴィンチXiを導入し、同年10月31日よりロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っている。今回我々は、2016年10月から2017年10月までに当院で施行されたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術23例のうち、手術翌日昼から大建中湯を服用した10例と服用しなかった13例において服用後第一排便までの期間に差があるか検討した。大建中湯服用群と非服用群とでは、年齢、摘出前立腺重量、術前PSA値、手術時間に有意な差は認めなかったが、コンソール時間、出血量については有意差を認めた（非服用群でコンソール時間が短く、出血量が少なかった）。大建中湯群では手術翌日昼より毎食前に大建中湯エキス剤2.5gを服用したが、パンテノール注での加療は行わなかった。一方、大建中湯を服用しなかった群では、13例中11例でパンテノール注での治療を行った。大建中湯服用群では服用後の第一排便までの日数が平均3.2日であったのに対し、非服用群では平均3.8日であった。また、術後1週間以内にセンノシドを内服した回数は、大建中湯服用群で平均0.4回、非服用群で0.6回であった。いずれも統計学的に有意な差は認めなかったが、大建中湯が術後の第一排便までの日数を短縮し、腹部症状の改善に効果がある可能性があることが示唆された。